



中高生とともに差別と闘う

人権学習は、希望

吉成タダシ（うずしおランチ代表）



娘の受けとめ

昨年の中学生集会でシンジが語った話についてお話ししてきました。でも肝心なのは、あの日、あの場に居合わせた娘は、いったいどう感じていたか、です。実はそれを物語る感想が、その夜にシンジから送られてきました。それを紹介して、お話に一区切りをつけたいと思います。

＊

今日はお世話になりました。自分にとっても、娘にとっても、特別な日になった気がします。

朝、家を出てから車の中で娘と二人きりの状態で息が詰まりそうでした。今から行く場所、事を彼女にとつてどのように伝えることが正解なのか……。

会場に行く前に立ち寄った、通い続けた「学習会」の場所。今までは「塾みたいなどこに通ってたよ」って伝えてたけど、学習会って名前をようやく出せることができました。パパの生きてきた、学んできたルーツを先ずは伝えられたのです。

会場についてからは、中学生の会ということもありましたが、少しでも自分の闘いとして話をさせてもらいました。いつも感極まるボクですが、娘を不安な想いにさせるわけにいかないから泣いてはいけないと思っていましたが、込み上げる想いを止めることはできませんでした。壇上で話をする時も娘に目を合わせる事ができませんでした。

んでした。これがボクの中の差別意識です。

昼で帰る予定でしたが、娘から「もう少しいたい」「最後までいる」って言われたことで救われる自分がありました。彼女の中で変わったこと、気付いたことは多くないと思いますが、終わった後に「楽しかった!」の言葉をボクに伝えた彼女の言葉は、これからの生き方のスタートを意味するものであると思いました。

帰ってからはテンション上がりまくりで、ママに今日あった出来事を一生懸命伝えてました。

先生にこんなこと言われたよ。お姉ちゃんが泣きながらこんなこと言ってたよ。お兄ちゃんは何回も手をあげて発表してたよ。パパが有名人になってたよ。などなど、嬉しそうにママに話して姿を背中で黙って聞いてました。

更には娘の口から「部落差別」という言葉もでてきました。なんとも言えない瞬間でした。「親の生き様、私の生い立ち、この子の生き方」が縦に並んだ瞬間です。

まだ部落問題の入り口でふわふわしている状態にあり、受け入れるまでこれから勉強する必要があるんですが、今日の出来事を小学校の先生に報告し、一緒に娘の成長を見守ってもらおうと思います。

中学生の真っ直ぐな意見、気持ちやどれも新鮮でした。お姉ちゃんに、「また来てね」って言われた娘がコクリと頷くシーンもあった

りしてホッコリしました。

とても良い空間であると思ったと同時に、今からの時代は本当に中途半端な教育ではダメなんだろうと思いました。SNSの話もありましたが、自分で情報を入れて、解釈し、行動にうつす時代です。何事も一人で抱え込まないことが重要です。あの場があるから言える、あの場があるから救われる、では事足りない気がしています。

友達を支え、自分の強さ、意志、全てが必要になってくると思いました。今日の中学生が幸せを感じて、ボクたちの世代もしっかり繋がっていかないとダメですね。勉強させられました。

これから部落問題と関わる新しいステージに立つことになりましたが、家族共々、幸せの数を一つでも多く感じとれる生き方ができればと思います。ありがとうございました。

人権学習は、希望

「もう少しいたい」「最後までいる」「楽しかった!」、こう言われたときの安堵感。そして、ささやかなるこび。

幼い我が子がどう受けとめたのか、連れて行くことは正しいことなのか、伝えるにはまだ早すぎるのではないかな。いや、やっぱり連れて来ない方が良かったのではなにか。様々な葛藤が、胸の内をめぐるしく変わっていたのではないかと思います。すべて自分のわ

がままであることを承知のうえで、それでも連れて行くことを決めたシンジ。そんな自分を納得させながら、考え得るサポートに思いを巡らせ、実行に移します。

とはいえ、自身の不安が消えるわけではありません。だからこそ、仲間が存在が必要なのだと思います。ひとこと相談できる仲間。本当に心許せる仲間。共感し合える仲間。そんな仲間づくりをめざしたシンジたちの学年でした。

同じような世界が娘に訪れるかどうかは分かりません。でも、「また来てね」と言われてコクリと頷いていたことを思うと、やはり支えになるのは同世代の仲間でないかと思えます。声をかけた中学生に、「よくやった! ありがとう」と、最大限の感謝を伝えたい気持ちでいっぱいです。もしかするとその一言は、一人の少女の人生を救ったかもしれないわけですから。

シンジと娘のストーリーは、この日のあとも様々な葛藤を生みながら続いていきます。折りをみてまた紹介できればと思います。

人権学習は、希望を生む。本気でそう思います。今年も新しい春を迎えました。「人権を語り合う中学生交流集会」もスタートします。すべての子どもたちが夢と希望を持って自分の人生をしっかり踏みしめられるよう、私もまた新しい一歩を踏み出します。仲間たちと共に。